

地域計画(案)

策定年月日	令和7年3月31日
更新年月日	()
目標年度	令和16年度
市町村名 (市町村コード)	曾於市 46217
地域名 (地域内農業集落名)	下財部地区 (高山,川内,宇都,沢田,十文字,吉ヶ谷,田平,下正ヶ峯,中正ヶ峯,田平ウッドタウン,正ヶ峯,西正ヶ峯,中尾,新並木,蓑原,上正ヶ峯,上正ヶ峰,中十文字,片平,十文字一区,下十文字,西十文字,正部,谷ヶ峯,溝ノ口,大石,中谷,踊橋,堤,桐原,高塚,水ノ久保,上大川原,下大川原,大川原,上大峯,赤坂)

注:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域計画の区域の状況

区域内の農用地等面積(農業上の利用が行われる農用地等の区域)	465 ha
① 農業振興地域のうち農用地区域内の農地面積	465 ha
② 田の面積	184 ha
③ 畑の面積(果樹、茶等を含む)	281 ha
④ 区域内において、規模縮小などの意向のある農地面積の合計	70 ha
⑤ 区域内において、今後農業を担う者が引き受ける意向のある農地面積の合計	ha
(参考) 区域内における80才以上の農業者の農地面積の合計	67 ha
うち後継者不在の農業者の農地面積の合計	ha
(備考)	

- 注1:①については、農業振興地域担当部局と調整の上、記載してください。
 2:②及び③については、農業委員会の農地台帳の面積(現況地目)に基づき記載してください。
 3:④については、規模縮小又は離農の意向のある農地面積を記載してください。
 4:⑤については、区域内に特定することができない場合には、引き受ける意向のあるすべての農地面積を記載の上、備考欄にその旨記載してください。
 5:(参考)の区域内における80才以上の農業者の農地面積等については、できる限り記載するように努めてください。
 6:「区域内の農用地等面積」に遊休農地が含まれている場合には、備考欄にその面積を記載してください。

(2) 地域農業の現状及び課題

認定農業者73名、基本構想水準到達者26名、農業法人12社、畜産農家36戸
 主要作物:水稲、飼料作物、お茶、露地野菜
 構造改善がされまとまった農地が多いが、担い手が高齢化により減少しており、県道沿いなど大きい道路から外れた農地は耕作放棄地が増えている。また、イノシシによる被害も年々増加しており、中谷地区では露地野菜を植え付けする人自体がほとんどいないため、現状では高収益化が難しい地区もある。この他、山林などへの転用を考えていても構造改善地区に入っているために非農地へできないなどの問題も出てきている。

(3) 地域における農業の将来の在り方(作物の生産や栽培方法については、必須記載事項)

農業委員会や農業委員と協力して、中間管理事業などを利用した集約化の推進を行い担い手の省力化及び規模拡大へつなげていきたい。また、せっかく畑かんが来ていて設置されていても、利用がされないままの農地も多く、畑かんを利用した高収益作物とイノシシなどによる鳥獣対策を併せてできる作物へ転換できるよう関係機関と情報交換していきたい。そして、担い手不足については、都城市と隣接していることから、地区外の担い手の発掘にも市町村と協力して行っていきたい。集落営農的組織もあるが、担い手の高齢化から次の世代がいらないため法人化できず、加入者も少なくなっているため、そういった団体に対する支援を市と県が連携して行って欲しい。

2 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標

(1)農用地の効率的かつ総合的な利用に関する方針			
農地バンクへの貸付けを進めつつ、担い手(認定農業者等)への農地の集積・集約化を基本としつつ、担い手の農作業に支障がない範囲で農業を担う者により農地利用を進める。			
(2)担い手(効率的かつ安定的な経営を営む者)に対する農用地の集積に関する目標			
現状の集積率	43	%	将来の目標とする集積率
			70 %
(3)農用地の集団化(集約化)に関する目標			
中間管理事業による賃貸契約を利用して全ての農地を賃貸契約の明確化を行い、今後の話し合い活動において規模拡大希望する担い手へ集約化できるよう団地数の削減及び団地面積の拡大を行う。			

3 農業者及び区域内の関係者が2の目標を達成するためとるべき必要な措置

(1)農用地の集積、集団化の取組				
担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を農地利用最適化推進委員と農地相談員と調整し、農地バンクを通じて進める。				
(2)農地中間管理機構の活用方法				
地域全体を農地バンクに貸し付け、担い手への経営意向を踏まえ、段階的に集約化する。その際農地利用最適化推進委員及び現地相談員と調整し、所有者の貸付意向時期に配慮する。				
(3)基盤整備事業への取組				
今後の話し合い活動にて詳細に詰めていく				
(4)多様な経営体の確保・育成の取組				
地域内外から、多様な経営体を募り、意向を踏まえながら担い手として育成していくため、市町村及びJAと連携し、相談から定着まで切れ目なく取り組んでいく。				
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の取組				
以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組内容を記載してください)				
<input checked="" type="checkbox"/> ①鳥獣被害防止対策	<input type="checkbox"/> ②有機・減農薬・減肥料	<input type="checkbox"/> ③スマート農業	<input type="checkbox"/> ④畑地化・輸出等	<input type="checkbox"/> ⑤果樹等
<input type="checkbox"/> ⑥燃料・資源作物等	<input type="checkbox"/> ⑦保全・管理等	<input type="checkbox"/> ⑧農業用施設	<input type="checkbox"/> ⑨耕畜連携等	<input type="checkbox"/> ⑩その他
【選択した上記の取組内容】				
①市の補助金を利用した電気柵の設置や、猟友会と連携した素早い駆除体制の構築を図る。				

4 地域内の農業を担う者一覧(目標地図に位置付ける者)

属性	農業を担う者 (氏名・名称)	現状			10年後 (目標年度:令和 年度)				
		経営作目等	経営面積	作業受託面積	経営作目等	経営面積	作業受託面積	目標地図上の表示	備考
別紙1			ha	ha		ha	ha		
計			0 ha	0 ha		0 ha	0 ha		

- 注1:「属性」欄には、認定農業は「認農」、認定新規就農者は「認就」、法人化を行うことが確実であると市町村が判断する集落営農は「集」、基本構想水準到達者は「到達」、農業協同組合は「農協」、農業支援サービス事業者(農協を除く)は「サ」、上記に該当しない農用地等を継続的に利用する者は「利用者」の属性を記載してください。
- 2:「経営面積」「作業受託面積」欄には、地域計画の対象地域内における農業を担う者の経営面積、作業受託面積を記載してください。
- 3:農業を担う者に位置付ける場合は、できる限りその者から同意を得ていること。
- 4:作業受託面積には、基幹3作業の実面積を記載してください。なお特定農作業受託面積は、作業受託面積に含めず、経営面積に含めてください。
- 5:備考欄には、農業を担う者として位置付けられた者に不測の事態に備えて、代わりに利用する者を記載するよう努めてください。

5 農業支援サービス事業者一覧(任意記載事項)

番号	事業体名 (氏名・名称)	作業内容	対象品目
	なし		

6 目標地図(別添のとおり)

7 基盤法第22条の3(地域計画に係る提案の特例)を活用する場合には、以下を記載してください。

農用地所有者等数(人)	992	うち計画同意者数(人・%)	(0%)
-------------	-----	---------------	------

- 注1:「農用地所有者等」欄には、区域内の農用地等の所有者、賃借人等の使用収益権者の数を記載してください。
- 注2:「うち計画同意者数」欄には、同意者数を記載してください。
- 注3:提案する地区の対象となる範囲を目標地図に明記してください。

(留意事項)

農業を担う者を位置付ける際、これらの者の氏名が含まれた地域計画について、法令に基づく手続として、本人の同意なく、関係者の意見聴取や、地域計画の案の縦覧、地域計画の公告を行うことができますが、個人情報保有に当たっては、利用目的をできる限り特定し、本人から直接書面に記録された個人情報を取得するときは、あらかじめ、本人に対し、その利用目的を明示してください。

また、市町村の公報への掲載等とは別に、インターネットの利用により関係者以外の不特定多数に対して情報を提供する場合は、氏名を削除するなど配慮してください。

必要に応じて区域内の農用地の一覧を参考として添付してください。